



1学期も終盤に入り、面談週間になりました。3年生は具体的な目標を決めていよいよ勉強に力が入る時期です。最初の進路通信は近年の大学入試を取り巻く状況まとめ、今後高校生がどのように高校生活を過ごすのがよいか考えてみました。

## 昨年度の入試より

ここ数年、私立大学の難化が指摘されています。難化の背景には、文部科学省が進める「定員の厳格化」があります。定員の厳格化とは、基準よりも多くの学生を入学させると国からの私学助成金がカットされることにより、ほぼ入学定員以内に合格者をしぼり込むことです。補助金が不交付となる超過率の基準は一昨年と同じ「大規模大学は定員の1.1倍、中規模大学は1.2倍」です。各大学は毎年合格者を減らしてきましたが、昨年度は一昨年並みの水準だろうと予想されていたのです。にもかかわらず、昨年度の私大、特に文系学部が全般的に難化したと感じました。その原因は受験生の安全志向が強まったからだと言われています。つまり、近年の私大入試の難化を受けて全体的に受験校を増やす傾向にあるのです。ですから、いわゆる「日東駒専」の難易度も上昇していますし、偏差値50以下の大学でも志願者が増えています。

## 2020年度入試に向けて今からできること

### 1 国公立大学を諦めない

上記は全て私大の話です。国公立大学の志願者はほぼ前年並みです。また定員が決まっていますので、合格者の絞り込みもしません。しかも、公立・国立大ともに後期試験は平均で50%以上欠席しています。ですから、最後まで諦めないことが大切です。

国公立大学のメリットはご存知だと思いますが、実は地方まで目を向ければ決して手の届かない存在ではありません。また、実学志向、丁寧な就職支援、お金や時間の管理能力といった汎用能力を習得できるなど、地方国公立ならではの魅力もあります。

国公立大学ではセンター試験の比重が大きい大学が多いので、自ずとセンター試験を大事にし、どの科目も精一杯勉強することになります。結局国公立大には行けなくても4科目、5科目学んできた受験生は私大入試で有利であることは明らかです。

### 2 安易に科目数を減らさない

【例】東洋大学文学部哲学科(2019年度入試結果より)

方式	受験者数	合格者数	倍率	合格最低点
センター前期5教科	108	61	1.77倍	72.0%
センター前期4教科	79	42	1.88倍	76.7%
センター前期3教科	357	64	5.57倍	81.9%

一時期3科目型から科目数を減らして受験生を集めようとする大学が現れました。一方、国公立型の4科目、5科目で国公立大受験者を集めようという大学が増えてきました。人気の高い大学はむしろ科目数を増やす傾向にあります。本校でも受験者の多い東洋大学を例に見ても明らかですが、科目数の多い受験方式の方が倍率も合格最低点も低いことがはっきりしています。安易に科目数を減らさずに最後まで諦めないことが大切です。

### 3 何をすべきか計画を立てる

1学期から夏休みにかけての期間は、自分の実力を客観的に見つめ、これまでの学習内容で理解が不十分な箇所を把握する時期です。特に各科目の勉強をどのようにバランスよく進めていくかが重要になります。その際、やみくもに勉強するのではなく、学習計画を立てましょう。学習計画を立てる時に確認しておきたいことが2点あります。1つ目は「得意科目・不得意科目」です。2つ目は「各教科の得意・苦手分野の確認」です。そして、ゴール(つまり第一志望への合格)から逆算して計画を立てていきます。学習計画は年間・1ヵ月といった「大まかな計画」と1週間・1日といった「細かい計画」を立てるとよいでしょう。学習計画を立てることにより、今何をすべきか把握することができます。また、今のペースで間に合うのか確認できますので改善も行えます。ぜひ、計画を立てて勉強をしましょう。

### 4 模試を積極的に受験し、活用する

受験生が受験勉強を進めていくうえで、自分の立ち位置を客観的に測り、日々の学習の成果を確認するのに役立つのが模試です。模試の結果が返却されると「判定」や「偏差値」を見てしまいがちですが、きちんと結果全体を分析し、今後の勉強に活かしましょう。特に分析してほしいのは各教科のバランスと設問ごとの得点率です。自分の弱点が反映されているので、その分野には特に力を入れて対策に取り組んでください。

また、模試を受けたら必ず解き直しをしましょう。解き直しは模試について一番覚えている当日の夜がベストです。模試の問題と同じ問題が入試本番で出題されることはよくあるので、「似た問題が出題された時に正解できるようになるため」にも解き直しは重要です。特に解けなかった問題と正解したけれどわからなかった問題をやりましょう。

### 指定校推薦について

指定校推薦についての質問が多いので説明します。

例えば「〇〇大の△学部、杉戸高校から1名」とあり、校内の選考会議で代表になり出願すると、ほぼ合格になる制度です。学業成績の基準はかなり高めです。競合した場合、評定平均が上の生徒が選抜されることとなります。「評定」を上げるには、定期考査の点数だけでなく授業が大切です。普段の授業や課題に一つ一つ全力で取り組むことは実力を蓄える最良の方法でもあり、一般入試のためにも忘れてはならないことです。推薦を受ける人は「すべての生徒の中で、模範的な生徒」でなければなりません。その行動、成績結果は後輩にも影響するのです。最近の指定校は英語の検定によるスコアを出願条件に加えたり、学力テストを課したりして以前よりはハードルをあげる傾向にあります。また欠席・遅刻・早退数が多いと、推薦入試に挑戦できません。注意してください。

### 夏休みを前に

「夏を制する者が受験を制する」。夏にやるべきことができたかどうかで秋以降の成績の伸びに差がつきます。ですから、夏休み前の今のうちから生活リズムを整え、毎日決まった時間家庭学習をしましょう。杉高では毎年数多くの補習講座を設けています。補習には積極的に参加し、学んだ内容を定着させるためにも復習は必ず行いましょう。裏面に夏期補習の予定を載せてありますので、参考にして夏休みの予定を立ててみてください。

また夏休みを中心に、各校でオープンキャンパスが開催されます。オープンキャンパスでは入試情報を聞くことができますので、昨年度と入試制度や入試科目に変更点がないかどうかを含め、積極的に最新情報を入手してきましょう。特に第2希望から第5希望くらいまで(行く可能性のある学校)は、比較的余裕のある夏休み中に見ておくことをお勧めします。